

< 川越市 >

— 川越市に提出した「公開質問書」 —

令和2年1月14日、本紙は川越市<川合市長・環境部長・都市計画部長>に「川越市泉町イズミ工業跡地利用に際して発生せる猛毒六価クロムに係わる対応とその後の処理、それに伴う産業廃棄物の不完全処理に関する疑惑について」と題する「公開質問書」を提出した。

提出した「公開質問書」を川合善明市長は、翌15日に『川越市長 川合よしあき』という自身のFacebook上で『勝手な推測と決めつけで「疑惑」を創り出しています』また、その後には『私に対する誹謗中傷を間もなく始めるのでしょうか』と書き込んでいた。

しかし5日後の20日には、当該「公開質問書」に対して、川合市長の書き込みは削除されていた。

■ 削除後の内容は下記である ■

「先週、行政調査新聞から「公開質問書」をもらった事をフェイスブックに載せましたが、Gen Takahasiなる名前の人物から品の悪い、気色の悪いコメント書込みがありましたので、一度削除しました。公開質問書に関することは、近いうちにまたお知らせします。」

[『川越市長 川合よしあき』 Facebook 緊急取材!!](#)

下記の文章は、令和2年1月14日、川越市に公開質問書を提示せる時に、福田忠博環境部長と二瓶朋史都市計画部長の御二方は目を通されている。

昨年暮れに、川越市寺尾に居住する市民「松元一恭（かずやす）氏」が知人を介し本紙を訪れ、元イズミ工業跡地利用の不正工事を平成18年から13年間に渡り調査し、その途上で埼玉県庁や川越市役所に数十回にわたり話し合いをしたが、彼らは不正を認めようと言わないと言った。一市民・一国民として、これを許すことはできないと本紙に助力の要請があった。

本紙は、泉町イズミ工業株式会社工場跡地利用に際して発生する猛毒六価クロムに關わる市の対応と、その後の処置、それに伴う産業廃棄物の不完全処理に關する疑惑につき昔日、川越市に対し「公開質問書」を提示している。

当時、舟橋市長が直々に本紙事務所を訪れ、「この一件に關する回答は暫しの日時が欲しい。中途半端な回答はできない。しっかりとした確実な回答をするから、それまで待つてほしい」旨の依頼があった。

（平成16年6月頃の時期は、舟橋功一氏と小生の仲は良好で舟橋功一氏とは、彼が弁護士時代のから親しい付き合いをしていた關係上、舟橋市長の依頼を無下にすることは出来ず、彼の依頼を承諾した）

後に、彼の当たりのよい例の笑顔に「騙された」と苦笑したが、以後に判明した「理美容学校乗っ取りの一件」で主役を演じた彼を許さず、疎遠の内に彼は逝った。振り返れば元イズミ工業跡地利用に關する公開質問書の一件は、川越市によって一時停止のままになっている。

松元氏の依頼を「請ける、請けない」は別に置き、本紙が川越市に提示せる質問書の回答を改めて要請する。川越市においては、イズミ工業跡工場跡地に対して都市計画を決定し街づくりの際して、工場跡地の整理・整備に關する厳密なる管理・監督を貴市は、市民の負託に應えるためにミスなく履行したかを川越市民として確認したい。

川越市は泉町地域振興の指導機関として、当該地域に關して発生せる諸問題を掌握されて当然で、泉町街づくりのための工場跡地利用に關する「産業廃棄物の全過程を記録せる資料」の整理・保管は川越市行政の義務である。本紙の質問に対し、詳らかなる回答を戴きたく宜しくお願い申し上げます。

行政調査新聞社 社主 松本州弘

[<クリックすると拡大します>](#)

[『公開質問書』 ←クリック](#)

本紙に対し、『勝手な推測と決めつけで「疑惑」を創り出しています』と書き込んだ川合市長の Facebook の投稿は既に川合市長自身が削除しましたが、当該「公開質問書」で本紙が川合市長を誹謗中傷している内容かを市民の皆様にご判断戴きたいと思っております。